

胃がん内視鏡検査の有効性

胃がんの状況	2022年の動向
胃がんの罹患数予測	男性：大腸がんに次いで第2位（91,100人） 女性：乳がん、大腸がん、肺がんに次いで第3位（41,000人） 男女計：大腸がんに次いで第2位（132,100人）
胃がんの死亡数予測	男性：肺がん、大腸がんに次いで第3位（26,600人） 女性：大腸がん、肺がん、膵がん、乳がんに次いで第5位（14,400人） 男女計：肺がん、大腸がんに次いで第3位（41,100人）

出典：国立研究開発法人国立がん研究センター



胃がんは、我が国のがん対策において、最重要がん腫の1つに位置付けられている。



【がん検診の目的】

無症状者に検査を実施して、当該がんの早期発見・早期治療を図り、当該がん死亡率を減少させること

胃内視鏡検診に伴う胃がん死亡率減少効果

先行自治体での研究	報告内容
鳥取県4市（鳥取、米子、倉吉、境港）及び新潟市を対象とした症例対照研究	3年以内に少なくとも一度でも胃内視鏡検診を受診した場合のオッズ比は0.695（95% CI：0.489～0.986）となり、30%の胃がん死亡率減少効果を認めた。
鳥取市と米子市におけるコホート研究	胃X線検診群と比べて、胃内視鏡検診受診群では67%の胃がん死亡率減少効果を認めたと報告されている（相対リスク0.327, 95% CI：0.118～0.908）

出典：日本消化器病学会雑誌 第117巻6号

胃内視鏡検診に伴う胃がん生存率

先行自治体での研究	報告内容
鳥取県4市（鳥取、米子、倉吉、境港）を対象とした症例対照研究	内視鏡発見胃がんの5年生存率は $91.9 \pm 1.6\%$ （95% CI：87.5～93.8）、胃X線検診発見胃がんの5年生存率は $86.8 \pm 2.9\%$ （95% CI：79.9～91.5）と、胃内視鏡検診発見胃がんの5年生存率が高かったと報告されている。
前橋市の症例研究	内視鏡検診がそれぞれ86.8%、82.6%、直接X線検診がそれぞれ68.4%、58.7%と、ともに内視鏡検診で有意に高かったと報告されている。

出典：日本消化器病学会雑誌 第117巻6号